

学習指導案（国語科）

学籍番号

- 一 対象 1学年9組 40名
- 二 日時 平成29年5月24日（水曜日） 第1校時 8:40～9:30
- 三 場所 1年9組
- 四 単元名（教材名） 宇治拾遺物語（絵師良秀）
- 五 単元について

(1) 教材観

本文の内容に関しては、一見非情にも思われる良秀の行動だが、彼の芸術至上主義という価値観を理解することが重要である。また初歩的な古文の文法理解を深めるために用言の活用や係り結びなどに力をいれていきたい。

(2) 生徒観

大人しく素直な生徒が多く、真面目に授業に取り組んでいる。ただ自己主張をするのを苦手としており、全体に対して発問をしても反応が薄いため、授業内容を理解しているか分かりにくい。生徒が理解しているかを把握するためにも適宜確認を行うことや多くの生徒に発言してもらうことを意識する必要がある。

(3) 指導観

内容を理解することを最低限の目標とし、その目標に向けて本文で省略された語を補い、主述目的の関係を明らかに解説していく。

六 単元の目標

- ・読み取った文章に対する自分の意見を持ち、表現することが出来る。
- ・語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、豊かな語彙を身につける。

七 単元の評価規準

能力	<p>国語への態度 関心・意欲</p> <p>・登場人物の行動や心情について興味をもち、進んで話し合ったり読みとったりして、作品を読もうとする。</p>
----	---

八 単元の指導計画（単元目標を達成するための指導計画を示す。）

言語についての知識・理解・技能	読む能力
	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語をとらえ、文章の大意を理解している。 係り結びに注目し、心情を読み深めている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の古典単語、用言の活用について正しく理解し読解に生かすことが出来る。

次時	学習活動	指導上の留意点	評価基準 (評価の観点)
一	<ul style="list-style-type: none"> ・『宇治拾遺物語』についての復習 ・音読を合計二回行う (全体、ペア) ・現代語訳をしながら内容理解をしていく。 ・動詞の活用や古語、主語などを意識して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一度『宇治拾遺物語』は学んでいるので復習をする。 ・むずかしい読み方や単語がどこで切れるのかを理解させる。 ・主語や目的語、主格の助詞を補いつつ一緒に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一度習った内容を覚えているか。 ・大きな声で正しく読めているか。 ・発問に対して積極的に答えているか。
二	<ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・現代語訳をしながら内容理解をしていく。 ・動詞の活用や古語、主語などを意識して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞の活用につまっていたら文法書を使用し、再度確認させる。 ・良秀の行った行動や感情について理解できるかどうかなどの発問を投げかけ、生徒の興味を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係を理解して現代語訳が行えているか。
三	<ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・現代語訳をしながら内容理解をしていく。 ・動詞の活用や古語、主語などを意識して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書や単語帳を使用して意味を確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書や本を使用して学びに繋がっているか。
四	<ul style="list-style-type: none"> ・音読 ・現代語訳をしながら内容理解をしていく。 ・動詞の活用や古語、主語などを意識して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、質問や分からないことがないかを確認していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞の活用を理解しているか。 ・内容を理解できているか。

九 本時案(第一次 第三時)

- (1) 本時の目標
 - ・指示語や代名詞を考え、内容を理解する。
 - ・良秀の奇妙な発言や行動を読み取り、理由を考えていく。

時	学習活動	指導上の留意点	評価基準 (評価の観点)
7分	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の範囲を音読する(P14 5行目〜8行目) ・前回の復習 ・範読を開く(P14 7行目〜11行目) ・ペアで一行ずつに交代に読む。(P14 5行目〜11行目) ・内容理解 →現代語訳に直していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物がないか確認 ・教科書ノートを開く指示 ・全体に問いかけて反応が無ければこちらから指名する。 ・大きな声で読むように指示。 ・「しつるせうとく」は「しつるしよう」とく」と読むことを注意。 	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物をしていないか。 ・前回習った内容を覚えているか。 ・大きな声で正しく読めているか。 ・ペアの活動をしつかり行っているか。
3分	<ul style="list-style-type: none"> ・8行目「あはれ」「年ころ」「わろし」の古語の意味を調べる。 〈発問〉8行目の主語、何を悪く書いていたのか。 ・9行目「とぶらひ」の意味を確認 〈発問〉10行目「かくては」は誰のどのような行動を指すのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あはれなりとの意味の判別。 ・わろしの対義語であるよろしの説明。 ・文章の区切りの良い所で区切つていき、単語を繋げる作業でもいので生徒に訳させる。 ・注釈を使うことを指示。 ・「せうとく」が所得という漢字、名詞であると伝える。 ・「かな」が「くだなあ」と訳すことを伝える。 ・「たまふ」は尊敬の補助動詞なので「なさる」と訳すことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語の関係を理解して現代語訳が行えているか。 ・辞書や本を使用して学びに繋がっているか。
9分	<ul style="list-style-type: none"> 〈発問〉「あさましき」の意味と対象 ↓誰が、何に対して「あさましき」なのか ・注釈の中の問題を解く。 ↓「人々が物のつきたまへるか」と言った理由を考える。 ・11行目の「言ひければ」の文法的な訳し方の確認 ・動詞の復習 「書く・言ふ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あさましき」にはいろいろな種類の意味があることを確認し、ここではどの意味が適切かを考える。 ・良秀の言動がいかに奇妙であるかを実感させるように自分が良秀の立場ならどうするかを考えさせる。 ・「エ段十ば」には前回で二つの訳し方があったことを確認させ、次回の授業で後ろの文との繋がりを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞の活用を理解しているか。 ・ここまでの内容を理解できているか。
1分	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の予告 		

十 板書計画

絵仙師良秀

感動詞
あはれ

所得
しつるせうとくかな。

長年の間
年ころは

良き
カ行四段
あろく
書まけるものかな。

良き
カ行四段
言ふ
とまに

見舞に
とぶらひ
に来たる者ど日、二はにかにかくては

見舞いに来たる者ど日、これはまたどうしてこのよつに

立ちたまへるぞ。あさましきことかな。

驚まされる

立ちおろびどなのか。あまされたことだなあ。

① 自然なは

物のつきたまへるか。と言ひければ、

怪しげな重が取つたまなまいったが。と云った(と云)のじ

あろし↑↓よろし

(良きなり) (悪きなり)

あさましき

① 驚まされるほどだ

② 情けな

あはれなり(形動)

↓ 趣味を感じる

あはれ(感動詞)

↓ ああ

十一 準備物

- 教師：教科書、ノート
- 生徒：筆記用、教科書、ノート、辞書、文法書